

調査月報 2018/02

目 次

A.台湾経済	1. 景 気 01	2. 物 價 01	3. 失 業 率 01	
	4. 通 関 貿 易 02	5. 鉱 工 業 生 產 02	6. 小 売 業 売 上 高 02	
B.トピックス	2017 年台湾株式市場の動き		03	
C.経済統計	台灣主要經濟指標 04	物 價 指 數 06	雇 用 概 況 06	貿 易 統 計 07
	鉱 工 業 生 產 指 数 10	商 業 売 上 高 伸 び 率 10	為 替 相 場 11	對 台 · 對 外 投 資 統 計 13

みずほ銀行
台北支店/台中支店/高雄支店

1.景氣 2017年12月

a.景気総合判断点数

景気総合判断点数は 22 点、景気対策信号は安定の「緑」から注意の「黄青プラン」へ後退した。当局は世界的な景気回復に伴い、輸出の成長が持続出来る模様。半導体先端設備への投資拡大、企業利益改善による民間消費成長で、国内経済成長を維持出来るとの見方を示した。

b.景氣動向指數

- #### ①景気一致指数(当面の景気動向を示す指標)

電力（企業）総用電量、商業売上高、鉱工業生産指数等は前月比で上昇した。

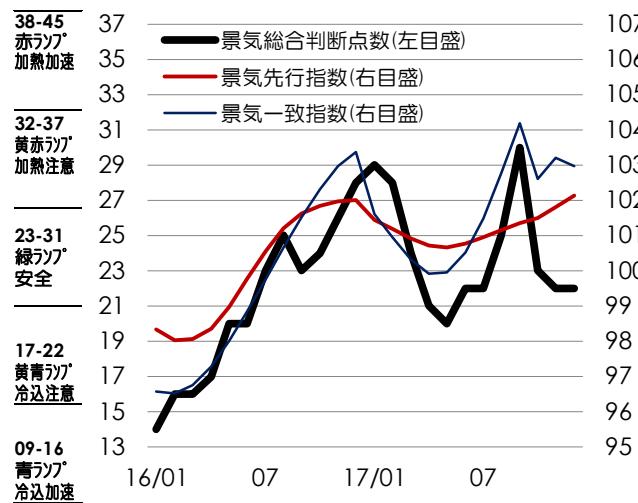
- ## ②景気先行指数(数カ月先の景気動向を示す指標)

建物延床面積、輸出受注指數、実質半導体設備輸入指數等は前月比で上昇した。

※SEMI=国際半導体製造装置材料協会

※M1B=現金通貨+普通預金+個人向け普通貯蓄預金+当座預金

図 A1.景気総合判断点数と景気動向指数の推移 出所:国発会



2.物価 2017年12月

a. 卸売物価

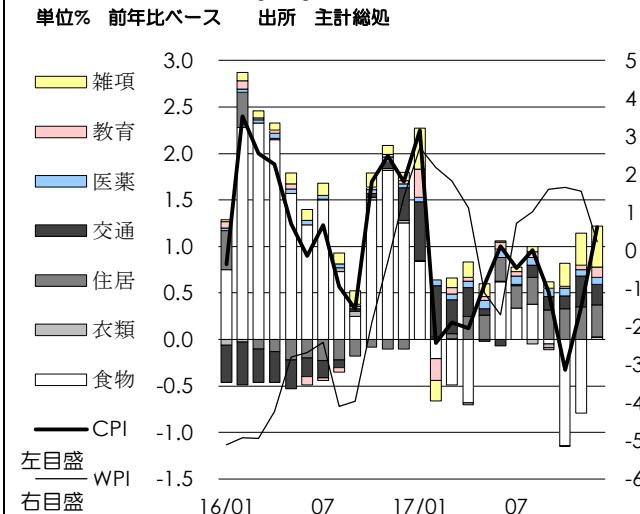
石油、金属、化学材料、鉱製品関連等の値上げを受けて、前年同月比でプラスに推移した。

b. 消費者物価

- ①衣料品類では百貨店の「週年慶」による年末の販促で既製服が値下げとなった。
 - ②食料品類は生鮮食品の野菜と果物の値下げにより下落となった。
 - ③日用品であるタバコ、美容、衛生用品、ホテル宿泊代の値上がりにより、他の CPI の構成値の下がり幅が相殺された。

などから、前年同月比でプラスとなった。

図 A2.消費者物価指数(CPI)上昇率と構成項目の寄与度



3.失業率 2017年12月

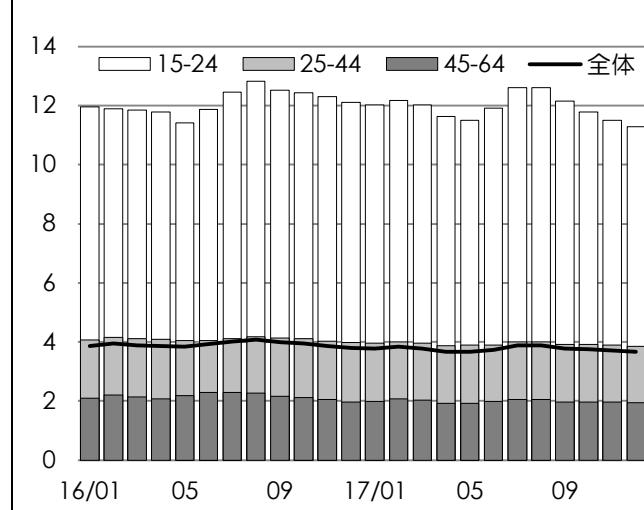
a.失業率:3.71%

前月より-0.05 ポイントが下落した。失業者数は 43 万 3 千人で前月より 6 千人が減少した。内、初めての求職活動で仕事が見つからなかった人は 3 千人、仕事内容への不満から離職した人は 2 千人、季節性または臨時性業務の終了による失業者は 1 千人減少した。業務縮小又は廃業で離職した人は 1 千人増加した

b. 就業

就業者数は、前年同月比+0.80%の1,140万5千人。業種別では、製造業は前年同月+0.66%の306万人、第三次産業は同+1.02%の677万人となっている。産業別就業者数の構成比を見ると、製造業26.80%、第三次産業59.38%、その他(一次産業+製造業を除く二次産業)13.82%となっている。

図 A3.失業率の推移 年齢層別 単位:%



4.通関貿易 2017年12月

a.輸出

- ①中国向け機械、電子部品の好況
- ②アセアン向け電子部品、鉱製品の堅調
- ③米国向けの情報通信製品の堅調、機械の好調などで、前年同月比15ヶ月連続のプラス成長となった。

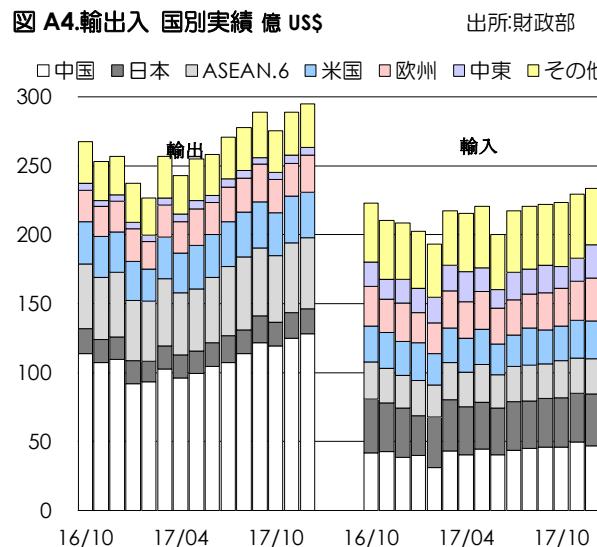
b.輸入

- ①中国からの電子情報製品などの活況
- ②日本から機械が堅調。電子部品の好況などで、前年同月比15ヶ月連続のプラス成長となった。

c.収支

前年比ベースでは、黒字額は対中、対アセアン、対米が増加した。赤字額は対日本がマイナスからプラスに転じて、対欧州がプラスからマイナスとなった。

図 A4.輸出入 国別実績 億 US\$



5.鉱工業生産 2017年12月

a.鉱工業生産全般

鉱工業生産指数は113.42で、前年比+1.20%となった。うち、製造業は景気回復に伴って、自動化設備の需要が高まり、機械設備の生産増で連續20か月プラス成長が持続出来た。

b.製造業4大産業別

①金属機械

工作機械、電子、自動設備の需要増で、半導体向け生産設備の増産が続いた。

②電子情報

IC 製造装置及びプリント基板の重要性は伸びたが、12インチウェハ等高単価製品の生産が減少した。

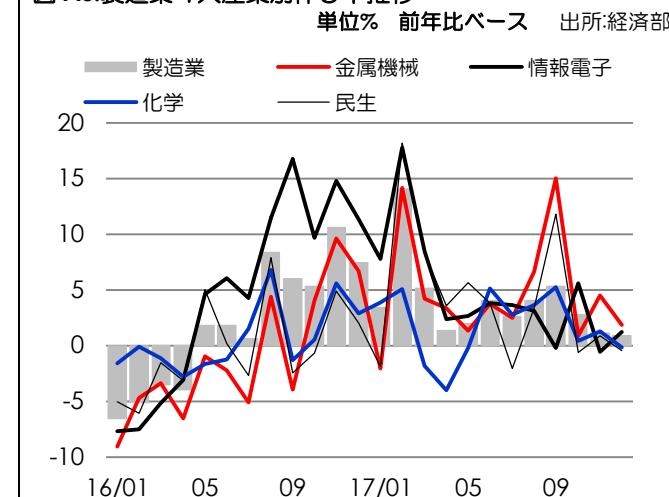
③化学

石油価格の上昇基調で石化原材料の好調になったが、オレフィン工場のメンテナス時期で、增幅が抑えられた。

④民生

昨年、タバコの増税と一部既成服業者が海外への生産シフトで、生産が減った。

図 A5.製造業4大産業別伸び率推移



6.小売業売上高 2017年12月

a.小売業全般

総合小売業の内、売上高で最大の百貨店はクリスマス、年末年始、忘年会等の商戦で、売上高が拡大した。情報通信、自動車等で売上高を伸ばした為、前年同月比プラスで推移した。

b.総合小売業

①百貨店 クリスマスや年末年始の商戦により営業収入が増加した。

②スーパー 業者の出店拡大及び「週年慶」営業活動により、集中的な特販で、堅調に上昇した。

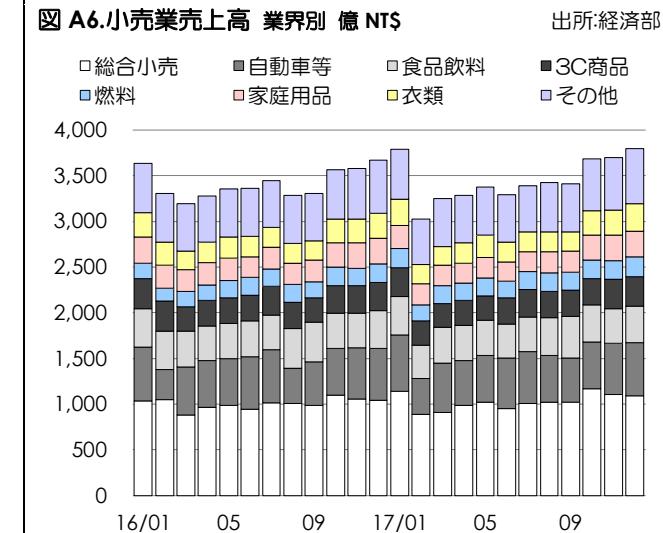
③コンビニ 出店数拡大で、生鮮食品、季節飲料の販促で売上高が上昇に繋がった。

④量販店 業者が出店増の他、悪天気になった為、来客数が増え、保温効力のある製品の販売増となった。

c.外食業

業者が出店数拡大で年末年始、忘年会等の商戦で、売上高が好調となった。

図 A6.小売業売上高 業界別 億 NT\$



2017年台湾株式市場の動き

a.世界の動き

2016年と比較して、2017年世界の主な株価指数は景気回復を反映して上昇傾向にある。伸び率は次の通り

アメリカ NASDAQ	28.2%
アメリカ DJI	25.1%
香港ハンセン	36.0%
韓国総合指数	21.8%
日本	19.1%
シンガポール	19.1%
上海総合指数	6.6%
ロンドン FTSE 100 Index	7.6%
台湾の株市場指標	15.0%

出所：行政院主計總處・台湾証券取引所・経済日報

b.台湾の動き

台湾証券取引所とOTC売買センターの統計によると、2017年の合計売買高は31.6兆元で、金額としては最近10年第三位となり、伸び率は45.1%の大幅成長である（図表B1参照）。

また台湾証券取引所の2017年の売買高は23.97兆元、2016年と比較して42.9%の大幅成長である。

この内、半導体やモバイル通信機器の販売活況を反映して、電子類株の割合が72.5%となり、2016年の割合と比べ7.5%も増加した（図表B2参照）。

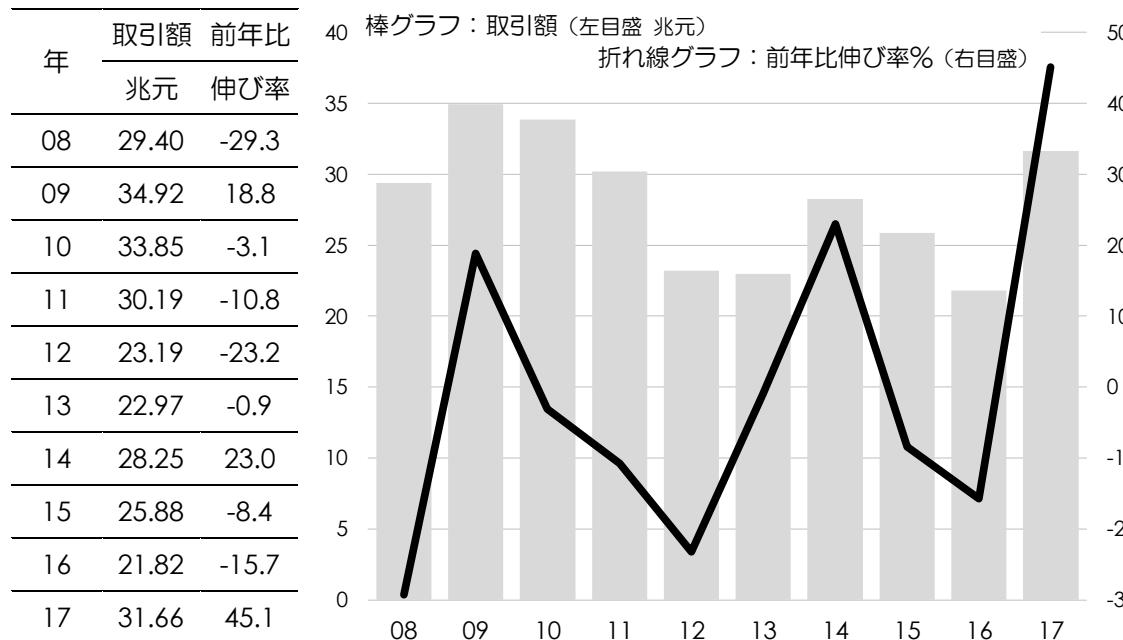
c.2018年の見通し

主要国際的なシンクタンクが2018年も景気拡張基調が続くと予想される中、台湾の輸出も成長維持できる見込み。中でもAI、IoT、車載電子、電信5G、AR/VR等の拡大が見込まれている。

このため、電子部品、半導体などのIT業種は引き続き好調を維持できると予想される。

ただ、一方では、上場企業がIT産業が大半を占めており、輸出品目も五割はIT品目に集中していることに対して、世界景気に影響されやすいことから、懸念されているところもある。

図表B1. 2017年台湾証券取引所とOTC売買センターの合計取引額 単位兆元、%



図表B2. 2017年台湾証券取引所の業種別売買高の割合 単位%

